

発刊にあたって

この度、当委員会では玉里振興会創立十周年記念事業として、奥州市の平成二六年度協働のまらづくり交付金を活用して史跡・神社・寺院等に焦点をあてた「我がふるさと探究玉里お宝三昧」を発刊することとしました。この冊子は、玉里地区文化財保存会が平成の初期に発刊した「玉里の史跡民俗文化資料」を基に編集し、玉里地区の歴史や文化を紹介するものです。

玉里地区は奥州市江刺区のほぼ中央に位置し、人首川流域に開けた豊かな農村地帯です。歴史的には、縄文時代以来の長い歴史があり、盛街道が通るなど三陸沿岸地方と内陸部を結ぶ交通の要所でもありました。仙台藩政時代には次丸村と角掛村の二つの村があり、明治八年（一八七五）に合併して玉里村となりました。その後、町制施行、町村合併を経て江刺町となり、さらに市制施行により江刺市、平成の市町村合併により奥州市となっています。

当地区の基幹産業は農業で、全国屈指の高品質銘柄米「江刺金札米」や肉用牛の「陸中牛」、「江刺りんご」等の農畜産物の産地です。また、多くの神社・寺院が分布し、古くから地域の崇敬を集めており、郷土芸能では鹿踊、神楽、甚句踊り等数多くの伝統芸能が伝承されています。

一方、平成五年（一九九三）に発刊された「玉里郷土誌」や同一二年（一九九九）に設置された「玉里地区史跡案内板」等を活用して、地域おこしや地域活性化を図りたいと「ふるさと史跡探訪ウォーク」を企画。平成二二年度から五年間実施し、区内を一巡しました。この探訪ウォークには、多くの地区民の参加をいただきました。参加者からは「玉里の全然知らない面を初めて知りました」などの声が寄せられ、玉里の魅力を再発見できたのではないかと感じております。今回、探訪ウォークが玉里地区内を一巡したことや、史跡等を知っていただきたいということで発刊することとしました。

この冊子の発刊にあたって、さし郷土文化館をはじめ玉里地区センター、玉里区長会、玉里振興会生涯学習部文化財委員会の皆様より、さまざまなご指導ご協力を賜りました。ここに深甚なる謝意を表しまして、発刊にあたってのご挨拶といたします。

平成二七年二月
（玉里振興会生涯学習部文化財委員会 委員長 松本正宣）

目次

玉里地区史跡案内図 1

発刊にあたって 3

目次・沿革 4

史跡・城跡・神社・寺院 5

羽山城跡・青篠城跡・高間ヶ岡館跡・玉崎館跡 5

守林寺跡・大林寺跡・天正寺跡・七里塚・高杉塚・八雲神社 6

羽山神社・愛宕神社・八幡神社・熊野神社・白山皇大神宮 7

大塚明神社・大森観音堂・玉崎駒形神社・雲南神社・懸角山瑞徳寺 8

青篠山守林寺・玉宝山正光寺・玉香山信行寺 9

人首街道・梁川街道・人首川・樋茂井堰 10

鹿股堰・中堰・千刈田堰・次丸追分の碑 11

柳沢発電所跡・白山滝・角掛森古館跡・角懸森古墳 12

郷土芸能 13

ふるさと史跡探訪ウォーク 15

五年間のあしあと 18

文化財委員・あとがき・作成委員 18

沿革

玉里地区は奥州市の北東部に、江刺区のほぼ中央に位置している。東部は米里、伊手地区にまたがる阿茶山（五三三・三〇七）、長倉山（二九一・九〇七）の高原状山地からなり、西部は南北に連なる万松寺山を境にして、いずれも一五〇㍉から二〇〇㍉の丘陵に囲まれた盆地状の地形をなしている。その中央部を人首川が西流し、その流域に耕地が開け集落が発達している。

明治八年（一八七五）十月に次丸村・角掛村が合併して玉里村と、明治二年（一八八九）四月の町制施行を経て昭和三年（一九五五）二月の江刺郡の合併で江刺町と、さらに昭和三年（一九五八）一月の市制施行により江刺市と、平成一八年（二〇〇六）二月の胆江地区五市町村の合併により奥州市となる。

当地区は全国屈指の高品質銘柄米「江刺金札米」や肉用牛の「陸中牛」、「江刺りんご」、野菜等の農畜産物の産地となっており、江刺地方の農業の拠点的役割を担っている。玉里地区には多くの神社寺院が分布しており、古くから地域の崇敬を集めてきた。また、当地区の郷土芸能は鹿踊、神楽、甚句踊りなどが伝えられ、鹿踊の伝承活動をはじめ、神楽や甚句踊りなど数多くの郷土芸能が継承されている。